

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 5 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0172901555		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホームあけぼの		
所在地	〒070-0081 旭川市亀吉1条1丁目2番1号 (電 話) 0166-21-7010		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14番地の9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年10月6日	評価確定日	平成21年11月18日

## 【情報提供票より】 (平成21年8月17日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤18人 非常勤0人 常勤換算11.2人	

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	2階建ての	全 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	16,500 円
敷 金	有 ( 円)	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 ( 円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 300 円
	夕食	550 円	おやつ 50 円
	または1日当たり 円		

### (4) 利用者の概要 ( 8 月 17 日現在 )

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	2 名	要介護2	7 名		
要介護3	5 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.8 歳	最低	64 歳	最高	99 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	くにもと病院、忠和クリニック、メイプル病院、ほのぼの通り歯科
---------	--------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

亀吉地区は石狩川と忠別川の合流地点で、三角州のように周りから隔離したような地域になっている。忠別川の淵に建てられた事業所で、堤防の高さもあり、川の流れは見えない。堤防の中には、公園が整備されていて、散歩には最適な環境にある。事業所は明るくほのぼのとした家庭的な雰囲気が満ちていた。利用者と職員、職員同士の信頼関係が密に形成されていて、介護力の高い事業所と評価した。高齢化が進む地域にある事業所としての存在力をどう示すのかがこれからの課題である。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前は特記するような課題が表記されていない。職員は理念や方針を原点に戻って、関係者だけでなく、地域の皆さんにも受け入れられるように、見直しをした。理念は利用者も一緒になって毎朝唱和するようになっている。</p> <p>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員全員で積極的に取り組んでいる。字句に表現すると、どうしても大約的で中間的な表現になり、課題や目標が多少曖昧になりがちとなる恐れがあることから、一人ひとりの個人的な考えや意見が分かるような自己評価の内容がこれからは大切になる。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>会議には、利用者、家族、町内会長、地域包括支援センターの職員と、次第に参加者が充実してきている。会議の内容については、事業所内でのヒヤリハット、拘束の防止や、目標達成の取組みの現状、職員の教育計画、年間の行事等について多面的に取り上げ、会議の振り返りの議事録はすべてに発言を取り上げ、出席者に配布をするよう期待する。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ご家族の意見・苦情を言える関係を常に保っている。利用者の状況を1ヶ月に1回電話で報告し、面会時にも近況について知らせている。お便りの配布のときに、金銭出納帳も複写し報告している。家族の信頼は、十分に取られている。たまたま昨年は職員の異動が激しかったことから、お便りの中で新人の顔写真も載せることにした。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域密着型と大きく取り上げられている。町内会の班長を引き受けて活動の一役を担っている。開設して5年を経過したが、地域に馴染んで溶け込んでいるとは言えない。高齢化に向かっている町内なので、これからは向こう三軒両隣で、お互いに助け合っていかなければならない。事業所の持つ力をどのように地域に還元するのか、出来ることにこちらから向かっていかれることを期待する。</p>
重点項目④	

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型の事業所の有り方を全員で協議し、ユニットごとに地域との連携を理念の中に取り上げ、新たに改正し、玄関や広場にさらには各自のネームカードの裏に明記し、引継ぎ時に唱和して周知に取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	これまでの理念を全員で見直しをし、自らの反省も含めて、これまで以上のサービスの向上に努め、利用者の日常行動の自立を促すことに全職員が努力をしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	今年町内会の班長となり、回覧板やお知らせの配布を行っている。資源回収や街路公園の清掃等に参加している。町内が高齢化しており、行事が少ない。利用者が参加する場がなく、老人会や福祉部の行事内容の把握が必要である。	○	高齢化地区の付き合いは、健康会を含めた総合的な医療・福祉の情報の発信基地を目指すことになる。地域に開かれた事業所を目指し、介助・支援の情報を公開し、地域力の把握に努めることを期待する。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者共に評価については認識し、改善計画書を作成し、カンファレンスやミーティングで職員の周知を図り、取り組みのプロセスを協議している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	町内会や老人会の代表者の参加が常態化し、更に地域包括支援センターの職員の参加もあり、次第に人材が揃いつつある。	○	報告に加えて、今年目標や課題について、参加者からの意見提案を受ける会議になることを期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の窓口がもっと身近に感じられるように福祉施設に情報の発信をすべきである。社会福祉協議会や地域支援センターで取り組んでいる年間行事などもサービスの質の向上に寄与している。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	訪問されたときには、近況について丁寧に伝えている。月1回事業所のお便りや利用者の健康状態や金銭出納、事業所の行事等について手紙を出して、家族はほぼ満足している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族とは面会の際や書面での提出を依頼しているが、日ごろから交流を図り、自由に話が出る雰囲気作りに配慮し、提起された意見等については、職員のミーティングで話し合い、対処策を取っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の大幅な異動があり、馴染むまでに苦慮したが、退職者の余裕を1ヶ月取り、その間に新職員と一緒に対処する措置を取ったことから、利用者の動揺を抑えることになった。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あけぼの4事業所で、教育委員会を設けて、職員の質の向上に努力している。経験を問わずに新人研修から、内部の要請に応じて、外部の研修・講座の情報を収集し、勤務のやりくりをしながら参加を奨励している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部での研修や勉強会のときに、他の事業所の職員との情報交換を行っている。しかし、まだ他の事業所との交流体験はしていない。	○	近隣地区の事業所の人的交流を試み、相互交流でレベルアップになり、お互いに鏡になれる事業所の発掘になることを期待する。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業所の説明の際に、家族と本人に見学することを薦め、他の利用者と職員の動きや会話から、馴染める雰囲気かどうか判断して貰っている。短期の体験で、雰囲気に馴染んでから入居の選択をしてもらうことも考えている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	掃除や食材の簡単な調理、配膳・下膳から食器の洗浄仕上げ拭き等可能なことは喜んで参加できる環境を作っている。オセロ競技をしながら、会話を楽しんでいる利用者もいて、穏やかな雰囲気を醸している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	マンツーマンに近い対応で、本人の希望や要望を速やかに把握し、応えている。個人の記録はセンター方式を採用し、全員が周知するよう努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画会議で、各担当者から毎日の関わりの中で安全と安心な雰囲気での人らしい生活を送られるような措置を検討している。計画作成者は、家族や知人友人関係者との面会を通して、文書化し周知させることに努力している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは5ヶ月ごとに行っている。状況の急変や異常行動や少しの変化についても気づいたところでミーティングなどで計画の変更に対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能の要素を持っていても、一事業所で実行するのは人的なこともあり、実行に踏み出す余裕はない。組織全体で取り組む課題である。	○	4つのあけぼのグループホーム、ヘルパーステーション、デイサービスを持つ母体の健康会を中心に、総合機能を十分に活かしながら、相談から訪問・居宅まで、地域の福祉のニーズに応えることを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望を受けて、事業所の近くの医療連携医に通院している。連携医とは1ヶ月1回の定期往診と、毎週の訪問看護を受け入れ、緊急時に備え24時間の連携体制を敷いている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	自分で判断できる利用者とは十分に話し合いをし、普段のときにも話題としてさりげなく取り上げて、確認をしている。家族の意向も取り入れて、職員全員で共有している。重度化し、他のあけぼのの事業所に移動した人はいるが、ここで終末を迎えた人は今のところいない。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	世間一般でも個人情報の遵守は常識になっている。事業所での取り扱いについても十分に熟知されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の希望に沿うように努力している。花じりの好きな人、外出希望者、夏祭りの見学したい人を支援している。	○	利用者の中には無表情無気力のような人も見受けられることから、ボランティア等を活用し話し合いや見守り等の機会をより多く持つことを期待する。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材・献立が外注になっている。キッチンが広場に面し、刻みなどの食材の調理に一部の利用者が一緒に作業している。	○	味付け・調理に意欲のある利用者の発見に期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週2回の入浴が慣例になっている。自立している人は夜間帯の入浴も行っている。夏は汗をかいたとって1日に2回入る人もいる。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	毎日の生活で、同じことの繰り返しになりがちである。趣味趣向の違いを受け付けられない人がいるのも確かで、その人らしさを表現するには、周りにもっと多くのスタッフが必要になる。	○	これまでの生活歴や習慣や趣味・楽しみごと等もっと引き出すような場面を作り出すように、演出も含めて取り組み、同じような年代で元気な近所の住民の力も発掘することを期待する。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	1人で外にでる利用者には、職員が後から見守りをしながら、ある程度自由に行動して貰っている。	○	事業所周辺はウォーキングに快適な環境にあり、天気の日には外に出て、四季の変化を楽しむことを期待する。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	開設時から、日中の施錠はしていない。外出する特定の利用者を常に気に掛け、出掛けるようすを感じると、声掛けや見守りを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回避難訓練をしている。夜間の避難訓練にも取り組んでいる。町内との連携が出来ていないが、町内が主催で消火訓練を企画し、その場所を提供することで、近所の人の協力が得られる。	○	高齢化が進む町内での訓練の場所を事業所が提供することで、町内会の婦人部や災害担当部の参加を得、地域での一体感が出る事を期待する。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	外部の管理栄養士による献立で、カロリーや摂取栄養の計算が出来ている。病歴や口腔や嚥下状態に合わせて、調理方法を変えている。摂食の記録もあり、水分の確保も行われている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	採光は申し分ない。広場・食堂のスペースも広く、ゆったり寛げる。喫煙者が二人おり、分煙する工夫をし、畳の小上がりを設けるなどゲームや囲碁・将棋・お茶の時間を過ごす共有空間づくりを考えていただきたい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	男性の多くが居室に籠もり勝ちで、一人テレビを見ているが、きちっと小奇麗に整頓されていて、居心地の良い居場所を作っている。		

※  は、重点項目。